

公益社団法人日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。ただし、画像診断、治療などに直接関わった医師（2名以内）はこの限りではない。

2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説，原著，調査報告，症例報告，特集，短報，読者の声である。
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので，他誌に発表されていないものに限る。
- 3) 論文作成に際しては，プライバシー保護の観点も含め，ヘルシンキ宣言（ヒトにおけるbiomedical研究に携わる医師のための勧告）ならびに臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省（平成15年7月30日，平成16年12月28日全部改正，平成20年7月31日全部改正）が遵守されていること。

※これらの指針は，学会誌1号に記載。

- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し，著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ（自身のホームページ，所属機関のリポジトリなど）においては表題，所属，著者名，内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し，著者全員の利益相反自己申告書（様式2）を添付すること。なお，書式は <http://www.jbcc.or.jp/member.html> からダウンロードし用いる。この様式2の内容は論文末尾，文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は，同部分に，「筆者らは，開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

- 1) 原則として“電子投稿”とする。
- 2) 電子投稿の際には，以下のサイトからアクセスする。
<https://www.editorialmanager.com/jjsc/>

4. 執筆要項

1) 文章と文体

- (1) 用語は和文または英文とする。
- (2) 平仮名，常用漢字，現代仮名づかいを用いる。ただし，固有名詞や一般に用いられている学術用語はその限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。
- (3) 度量衡単位はcm, mm, μm , cm², ml, l, g, mgなどCGS単位を用いる。
- (4) 外国人名，適当な和名のない薬品名，器具および機械名，または疾患名，学術的表現，科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。
- (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また，その略語を用いても良いが，はじめに完全な用語を書き，以下に略語を用いることを明らかにする。

2) 原稿の書き方（電子投稿でない場合）

原稿はワープロを用い，A4判縦に横書きし，1行25字で20行を1枚におさめる。上下左右に30mm程度の余白をとり，左揃えとする。文字は12ポイント相当以上を用いるのが望ましい。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (英文のみ), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript,

PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

なお、写真の解像度は、雑誌掲載サイズで300dpi以上が目安である。

4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ、内容抄録、索引用語 (key words)、本文、利益相反状態の開示、英文抄録、文献、写真、図、表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ (1枚目) には、当該論文における修正稿回数 (初回、修正1など)、論文の種別 (原著、症例報告、短報など)、和文の表題 (50字以内)、著者名、所属のほか論文別刷請求先、著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2枚目には内容抄録、索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし、それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著：12名以内

調査報告：10名以内

症例報告：10名以内

短報：6名以内

総説：1名を原則とする

(3) 内容抄録

短報を除いて500字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的、方法、成績、結論

症例報告：背景、症例、結論

総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を5語以内で表示する。原則として、第1語は対象、第2語は方法、第3語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌4例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology

肝細胞癌についての1考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review 喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな1例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report

(5) 本文および枚数制限

a. 原著・総説・調査報告

本文、文献を含め10,000字以内 (A4判20頁) とする。

図・表 (写真を含まず) は、10枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが、必要最少限の枚数とする。

b. 症例報告

本文、文献を含め6,000字以内 (A4判12頁以内) とする。

図・表 (写真を含まず) は、5枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが、必要最少限の枚数とする。

c . 短報

出来上がり2頁以内とする.

写真は2枚以内 (組み合わせは各々2枚以内) , 図表は計1 枚までとする.

写真2枚と図表1枚が入った場合の本文 (I . はじめに~) と文献は1, 500字程度 (A4 判3頁) を目安とする.

(6) 英文抄録

本文とは別紙に, 表題の英訳およびローマ字つづりの著者名, 所属の英文名, および抄録内容を記す.

著者名のあとに, 以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する.

医師 : M. D. M. D., M. I. A. C. M. D., F. I. A. C.

歯科医師 : D. D. S. とし, それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する.

臨床検査技師 : M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C. などを記載する.

抄録内容は英語で200語以内 (ただし表題, 著者名, 所属名はのぞく) とし, 以下のような小見出しをつけてまとめる.

原著と調査報告 : Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告 : Background, Case (またはCases) , Conclusion

総説 : 論文の内容に応じて適宜設定

短報 : 小見出しをつけずに100語以内にまとめる

(7) 文献

a . 主要のものに限る.

原著・特集・調査報告 : 30編以内

症例報告 : 15編以内

短報 : 5編以内

総説 : 特に編数の制限を定めない

b . 引用順にならべ, 本文中に肩付き番号を付す.

c . 文献表記はバンクーバー・スタイルとし, 誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会, 英文文献はIndex Medicus に準ずる. 参考として以下に例を記載する.

【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで, 欧文名は姓のみをフルスペル, その他はイニシャルのみで6名まで表記し, 6名をこえる場合はその後を“・ほか”, “et al” と略記する). 表題 (フルタイトルを記載). 雑誌名 発行年 (西暦) ; 巻 : 頁-頁.

【単行本の場合】

著者名. 表題. 発行地 : 発行所 ; 発行年 (西暦) .

なお, 引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名, 単行本の表題を記し, 発行年. 頁-頁.

他者の著作物の図表を論文中で使用する場合は, 原著者 (あるいは団体) より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で, これを証明する書類を添付する.

(8) 図・表・写真

a . 図, 表は英文で作成する. 写真, 図, 表はPhoto.

1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ, 簡単な英文のタイトルと説明を付記する.

- b. 本文中には写真，図，表の挿入すべき位置を明示する.
- c. 顕微鏡写真には倍率を付する. 光顕写真（細胞像，組織像）の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが，写真へのスケールの挿入が好ましい. 電顕写真については撮影時の倍率を表示するか，または写真にスケールを入れる.

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文（原著ないし総説）から構成される. 特集企画者は，特集全体の表題（和文および英文）および特集の趣旨（前書きに相当）を1,200字以内にまとめる. 原稿の体裁は原著・総説に準じる.

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので，本誌掲載論文に関する意見，本学会の運営や活動に関する意見，臨床細胞学に関する意見を掲載する. ただし，他に発表されていないものに限る. 投稿は以下の所定の書式・手順による.

- (1) 表題は和文50字以内とする. 表題に相当する英文も添える.

改行して本文を記述する.

末尾に著者名（資格も付記），所属施設名，同住所の和文および英文を各々別行に記す. 著者は1名を原則とする. 文献は文末に含めることができるが，表・写真・図を用いることはできない. これらの全てを1,000字以内（A4判2頁以内）にまとめる.

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する. なお，投稿

内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には，本委員会より該当者に執筆を依頼し，併列して編集することがある.

7) 英文投稿の場合

A4 縦にダブルスペースで10頁以内とする.

和文抄録を付し，図・表その他は和文の場合に準ずる.

5. 別 刷

別刷を希望するときは，校正時に部数を明記して申し込む.

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し，その結果を筆頭著者に通知する. 審査にあたっては査読制をとる. 原稿の組体裁，割付は編集委員会に一任する.

7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う. 出版社から送付された校正は，必ず3日以内に返送する. 校正担当者が筆頭著者以外の時は，校正の責任者と送り先を投稿時に明記する. 校正では間違いを訂正する程度とし，原稿にない加筆や訂正は行えない.

8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし，超過頁の掲載料は著者負担とする. 白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが，その他の図版費（図の製版代），英文校正料，別刷代は著者負担とする. また，邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし，英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する.

9. 依頼原稿

依頼原稿は、総説または原著の形式とし、査読を必要とせず、著者校正を行う。

依頼原稿の著者は、日本臨床細胞学会会員に限らない。

図・表・写真に関しては、和文での作成を許容する。また掲載料に関しては全額免除とする。

10. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

1992年（平成4年） 6月一部改定
1994年（平成6年） 6月一部改定
1997年（平成9年） 6月一部改定
1999年（平成11年） 6月一部改定
2009年（平成21年） 5月一部改定
2009年（平成21年） 6月一部改定
2009年（平成21年） 11月一部改定
2010年（平成22年） 4月一部改定
2010年（平成22年） 9月一部改定
2011年（平成23年） 3月一部改定
2011年（平成23年） 8月一部改定
2012年（平成24年） 4月一部改定
2014年（平成26年） 5月一部改定
2018年（平成30年） 11月17日一部改定
2019年（平成31年） 3月23日一部改定

添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定はwww.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい。従来は国内での査読を行っていましたが、直接投稿していただくことになりました。

添付2 以下の2項目は毎年の1号に掲載する。

- ・ヘルシンキ宣言
- ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針

2003年（平成15年） 7月30日制定
2004年（平成16年） 12月28日全部改正
2008年（平成20年） 7月31日全部改正